



<http://www.inokuchi-edu.city.hiroshima.jp>

「基礎・基本」定着状況調査の結果報告

6月14日（火）に、広島県内の小中学校で「基礎・基本」定着状況調査が一斉に行われました。井口小学校の結果と分析についての資料を作成し、第5学年においては先の懇談会で説明しましたが、その内容は、本校児童に共通する傾向として捉えることができ、今後の学習や生活の指導に生かしていきたいと考えますので、お知らせすることとしています。

特に「生活と学習に関する意識・実態調査」の結果につきましては、ご家庭でも是非参考にさせていただきますよう、お願いいたします。

1 「基礎・基本」定着状況調査とは

① 調査の趣旨

- ・「読み・書き・計算」などの基礎的な内容とともに、思考力・判断力・表現力などの定着状況や、児童の生活や学習に関する意識や実態を把握すること。
- ・結果を分析することで、学校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図ること。

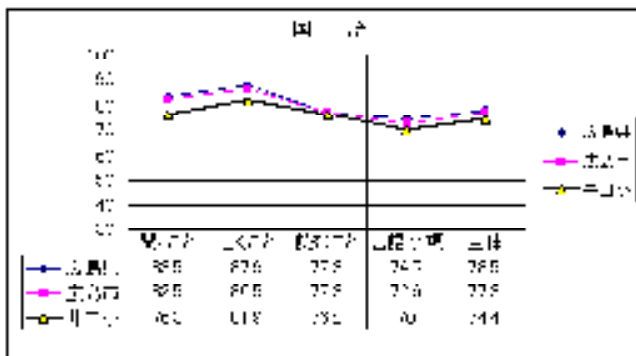
② 調査期日 平成23年6月14日（火）

③ 調査対象 第5学年児童全員

④ 調査内容 ・国語と算数における4年生までの学習内容の定着状況
・生活と学習に関する意識・実態について児童質問調査

2 調査結果について

① 国語



全体として、県や市を下回る結果でした。

「聞くこと」では、話の要点を正しく聞き取る力が不十分であることが明らかになりました。国語科の授業に限らず、落ち着いた話を聞く環境作りに努め、友達と自分の意見の似たところや違いに気をつけて聞くことを意識させたり、

聞いた後で内容について質問したりして、要点を意識しながら聞く習慣をつけさせた

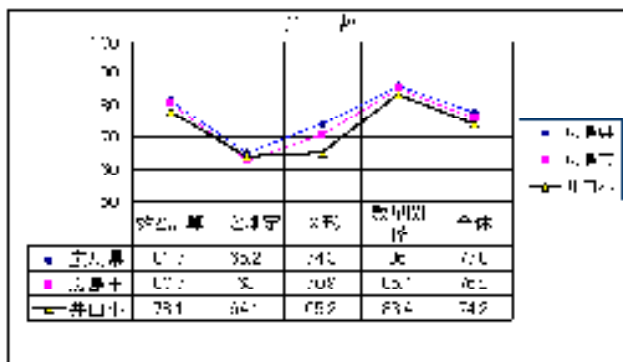
と思います。

「書くこと」では、書くことの収集や選択についてはおおむねできていますが、内容ごとに段落を整え、自分の考えを明確にしながら順序立てて書くことには課題が見られました。そこで、今後も日記や作文など書く機会をできるだけ設け、書きたいこと、中心を明確にして自分の意見や思いを表現するよう指導していきたいと思います。また、文章構成の手本として教科書の教材文や児童の優秀作品等を活用し、それに沿って文を書くことで作文の書き方に慣れさせたいと思います。

「読むこと」では、場面の移り変わりや情景を想像しながら物語を読んだり、段落相互の関係を意識しながら説明文を読んだりすることには課題が見られましたが、適切な語句や接続語を選択することはおおむねできています。引き続き、朝の読書タイムや音読の家庭学習に取り組むことで、学年に応じた語彙の定着を図りたいと思います。

また、「言語事項」では、主語・述語の関係、ローマ字の読み書き、既習の漢字の読み・書きについて、定着が芳しくないことが明らかになりました。日々の作文指導や書くことの指導において、主語・述語を意識しながら文を書かせたり、既習の漢字を意識して使わせたり、また、ローマ字や漢字について、繰り返し指導していきたいと思います。

② 算数



全体として、県や市を下回る結果でした。すなわち基礎的・基本的な学習内容が十分定着していないと考えられます。なかでも、領域別では「量と測定」と「図形」は正答率70%未満でした。多くの課題がみられるなか、特に「図形」では県との差が9.1ポイントもありました。本校の児童の結果、問題別に見ると「数と計算」の領域

では分数の意味や数の相対的な大きさを理解する問題で、「量と測定」の領域ではおよその重さを考える問題で、「図形」の領域では長方形や正方形の定義や直角三角形の作図の問題で、「数量関係」の領域では四則混合の計算の問題で、誤答率が高くなっていました。

そこで、現在も繰り返し指導していますが、基礎的・基本的な知識や技能の定着に向けて計算ドリルやプリントなどでの繰り返し学習を一層充実させていきたいと思っています。授業では、関連した既習事項をその都度振り返りながら大切な事項については教室に掲示し、定義や基本問題をパソコン・テレビを使った「フラッシュカード」での復習を継続して指導していくことで基礎・基本の定着を図ってきたいと思います。また、問題を解決したり新しい考えを生み出したりするための思考力や判断力を身につけるために、既習事項をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や考えたことなどを表現したり説明したりする活動を取り入れた学習を計画的に実施し、課題について筋道を立てて考える力も高めていきたいと思っています。